

卒業五十年同窓会報告

令和7年10月18日(土)、ブリランテ武藏野において、昭和五十年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業五十周年記念同窓会を開催いたしました。昭和五十年に卒業し、五十年がたつた今年は、昭和で言えば百年に当たる年であり、記念すべき年回りであることから、あえて「記念」の文字を入れ、開催することにいたしました。

開催準備に当たっては、教友会学年理事七人(井上馨・梅山健司・野口忠・平賀健郎・松澤勇治・野口英世・小谷野健史)が発起人となり、七回にわたる準備会を行いました。当初は、野口英世さんが代表幹事で進めておりましたが、体調を崩されたため、後任として梅山が務めることになりました。準備会では、会の運営や内容、役割の分担等について、さらに十七名の方々に開催当日の幹事を依頼するなど、細部まで検討し、開催案内状は、小谷野幹事が担

いました。

令和7年10月18日(土)、ブリランテ武藏野において、昭和五十年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業五十周年記念同窓会を開催いたしました。昭和五十年に卒業し、五

十年がたつた今年は、昭和で言えば百年に当たる年であり、記念すべき年回りであることから、あえて「記念」の文字を入れ、開催することにいたしました。

埼玉大学教育学部

昭和五十年三月卒業生

梅山 健司

昭和百年 記念すべき同窓会に集う

卒業五十年同窓会



埼玉大学教育学部

昭和五十年三月卒業生

梅山 健司

昭和百年 記念すべき同窓会に集う

卒業五十年同窓会



当し、会員名簿などをもとに三百五十余通を発送し、さらに返信をまとめました。その上で参加意向者を確認し、参加名簿を作成しました(当日の参加者数五十五名)。当日集まつた同級生たち。開場前にも関わらず、久しぶりの再会に、あちらこちらで旧交を温めました。

開会を前に記念撮影を行いました。水谷薰幹事が撮影したデータを持って、野口幹事がプリントに走り、会の途中には参加者全員に記念写真を手渡すことができました。

埼玉大学の沿革のほか、学生時代の写真が紹介され、「あれは誰々だ。」「あの頃は○○だった。」など、楽しげな会話があちこちから聞こえてきました。

続いて、各テーブルを代表して二分間スピーチをしていただきました。最初に口火を切るお手本役として、林健次、吉澤勝両幹事に話をしてもらいましたが、あの時代の学生の生活が垣間見えるエピソードで、大いに盛り上がりました。お陰で、その後スピーチされた青木美智子さん、丸山昇さん、小林崇代さん、水谷薰さん、大澤章一さんたちも、お酒も手伝つてか、さらに盛り上がるお話をしてくださいました。

幹事代表の挨拶では、ご支援いいたいた教友会への感謝とともに、ご出席いただいた同会会长大澤利彦様へのお札を、さらに同窓生との再会の喜びを述べさせていただきました。

思い出のコーナーの最後は、野口幹事の指揮のもと「遠い世界に」



の大合唱。懐かしさとともに、別れがたい歌声が響き渡りました。懐かしい友と再会した喜びとたくさんお話ししてくださいました。一つ一つの出来事が、当時を鮮やかに蘇らせてくれました。松澤幹事の乾杯の発声により、会場は一挙に賑やかに盛り上がり、美味しい食事とお酒を楽しみながら、会話を弾ませる素敵な時間が流れていきました。

中ほどで、平賀・武正光江両幹事が司会となり、思い出のコーナーに移りました。野口忠幹事作成の映像がスクリーンに投影され、埼玉大学の沿革のほか、学生時代の写真が紹介され、「あれは誰々だ。」「あの頃は○○だった。」など、楽しげな会話があちこちから聞こえてきました。

最後に、井上幹事の会計報告並びに閉会の言葉により、記念すべき同窓会がお開きとなりました。陰で支えていただいた当日幹事の新井守、石塚保二、谷村伊都子、丸山昇、松田元子、若林茂次、奥直、鈴木薰、小島佐知子、大熊直美、河野栄子、田中郁子の皆さんに感謝。

卒業四十五周年同窓会



埼玉大学教育学部 昭和五十五年三月卒業生 守屋 敏夫

絆が一層深まる

令和七年十月二十六日(日)正午、三十三名の参加を得て(やむなく欠席ながら、一八八名から近況報告等あり)、ブリランテ武藏野工メラルドの間に、卒業四十五周年同窓会を開催いたしました。前回が平成三十年十二月二日でしたので七年ぶりの同窓会です。司会者は幹事の西川和利さんで、開宴前にまず記念撮影。続いて、卒業後にご逝去された同窓生に、謹んで哀悼の意を表して黙祷を捧げました。

久保寺光明幹事による開会の言葉に続き、吉田睦代代表代理幹事による挨拶は、代表幹事の田村俊一さんの話(急遽の入院で欠席されたこと)、皆さんのが元気に集まれたことを幸せに思うこと、免疫力は笑いで高まる旨の挨拶で、一気に同窓会開催のボルテージがあがりました(田村さんはハガキの発送や取りまとめ、準備や手配の一切を担っていたときました)。

教友会事務局長である松澤勇治様による祝辞は、教友会支援の「卒業五X周年同窓会」のご紹介と三つの「ショク」を大切にしているお話し(①食べるショク・日

本の伝統的な食事の大切さ②触れ合うショク・触れ合うことと一歩踏み出すこと③職業のショク・無理のない範囲で働き続けること)をいただき、感銘深く拝聴させていただきました。最後に、教友会顧問の金子美智雄様がまとめられた「埼玉大学の今昔」と「埼玉大学創基一五〇周年記念年表」のご紹介や「埼玉大学ホームカミングデー二〇二五」溝口紀子氏のご講演のご紹介、そして最後に、この会で皆様の絆が一層深まるごとを願っておりますとご挨拶をいたしました。

そして、関根隆之幹事による乾杯の発声。関根さんは事前に大学に趣いて同窓会冊子の表紙(正面から見た大学風景)を描いてもらいました(当時の木がとても見事な木々となり、立派な大学になつたとの紹介も付け加えてありました)。

小林幸美幹事から「健康でまたお会いできる日、卒業五十年同窓会を楽しみにしています。」と閉会の言葉をいただき、終宴となりました。

諸連絡として、吉田睦代代表幹事より口頭による会計報告があり、皆様よりご承認をいたしました。

に挨拶をいただきたい旨の話があり、跡部和恵さん、毛塚悟さん、設楽政夫さん、濱口正巳さん、森野重明さんらが快く引き受けくださいました。近況報告や大学当時の思い出等を限られた時間ながら語っていました。突然のご指名にもかかわらず、ありがとうございました。

五年後は、より大勢の同窓生が余興で、岩崎功さんと渡辺肇さんにギター演奏をしていただきました。四十五年前の当時の流行曲・森田公一とトップギヤランの「青春時代」、井上陽水の「夢の中へ」、チューリップの「心の旅」の三曲を続けて弾いていただき、会場のみんなで手拍子や口ずさんで盛り上がりも頂点に達しました。

五年後は、より大勢の同窓生が健康新規に参加いただけることを願いながら、卒業四十五周年同窓会の報告といたします。

五年後は、より大勢の同窓生が健康新規に参加いただけることを願いながら、卒業四十五周年同窓会の報告といたします。



退職時期同窓会

埼玉大学教育学部 昭和六十一年三月卒業生 石井 宏明

四十年の歳月を越えて



澄み渡る青空のもと、穏やかな天気に恵まれ、私たちは、十一月二十二日土曜日、ホテルブリランテ武藏野二階「エメラルド」において、ご来賓として、教友会副会長の高瀬浩様をお迎えし、退職時期同窓会を開催しました。

私たち昭和六十一年三月卒業生は、合計五百六十七名おりました。その内、連絡先が分かる方二百五十一名に同窓会開催の案内を差し上げたところです。その後、各専攻・専修ごとに口コミで広がり、お蔭様で、八十一名の同窓生が集い、盛大に開催することができます。参加者の中には、海外から駆けつけていた方もおり、当熊本県や三重県、秋田県など遠方から参加いただいた方もおり、当初、どれだけの参加者となるか心配しておりましたが、多くの方に参加いただいたことに、幹事(学年理事)一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

開会に先立つて、記念撮影を行いました。その後、仲間の物故者に黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。そして、ご来賓の教友会副会長の高瀬様が入場されました。

司会は、幹事の金子正さんと渡邊祐子さんです。幹事の山田浩一さんの開会の言葉で、いよいよスタートです。

まず、私が、幹事代表として挨拶を申し上げました。

次に、ご来賓の高瀬様からご祝辞をいただきました。まず、退職を迎えたことに対するお祝いの言葉。人生百年時代を迎える今後、それぞれの人生を歩み、「自分物語」の続きを創つてほしいと激励されました。また、教友会事業の説明、当日開催されたホームカミングデーの報告がありました。

そして、幹事の肥土耕一さんより乾杯の発声があり、いよいよ歓談です。会場は、九テーブルで、一テーブル八人(十人が座つて)ます。専攻・専修ごとに座席を工夫したことにより、乾杯後は、すぐに和やかな会話が始まりました。

近況報告や学生時代の思い出など、楽大いに旧交を温め、語り合つています。杯を重ねるごとに次第に賑やかになり、還暦を過ぎた者同士ですが、まるで、学生時代に返つたようです。

続いて「bingoで『近況&思い』

出話』です。山田浩一さんの進行のもと、bingoゲームを行い、先に「bingo」になつた方に近況報告や思い出についてスピーチしてもらうという企画を行いました。埼玉大学公式キャラクターの「メリンちゃん」グッズを賞品や参加賞として用意しました。先に六名の方が「bingo」となり、賞品を受け取るとともに、スピーチをしていただきました。思い出や近況について、ユーモアを交えてのスピーチで大いに盛り上がりました。

締めと閉会の言葉は、幹事の長江清和さんです。

その後、記念写真の配付方法や会計報告などについて連絡し、閉宴となりました。あつという間の二時間三十分。閉宴後は、参加した皆さん、なごり惜しそうに会場を後にしました。その後も、多くの方々から、私ども幹事への慰労の言葉や次回同窓会への期待の言葉など、多数のメールをいたしております。「お蔭様で、楽しい同窓会でした」「久しぶりに友達に会えてよかったです」「幹事の皆さん、本当にありがとうございました」「また、皆さんで集まりたいですね」など、幹事一同、感



無量です。

結びに、「退職時期同窓会」開催にあたり、多大なご支援をいたしました教友会の皆様に深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

卒業三十周年同窓会報告 同窓の「縁」に感謝して

埼玉大学教育学部
平成七年三月卒業生
大井 敏章

令和七年九月十三日(土)、ブリランテ武藏野において、平成七年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業三十周年同窓会が開催されました。十五年前に卒業十五周年同窓会を

前回は参加者が十名程しか集まりませんでした。そこで今回は、「参加者数三十名」を目指にして準備を進めることにしました。

案内の発送は五月下旬に行いました。教友会事務局からいただいた宛名ラベルを使用して、約七〇〇名の同窓生のうち、名簿に住所が掲載してある一八二名に案内を発送しました。案内には、二種類のQRコードを掲載しました。一種類は出欠回答フォーム、もう一種類は案内のPDFをダウンロード

ドできるようにして、郵送できな
い方への拡散をお願いしました。
回答締切を七月二十二日に設定
して回答を待ちました。六月末時
点で参加申込は十名弱であつたた
め不安でいっぱいでしたが、残り
一週間で参加申込が増え、締切時
には二十七名の参加申込がありま
した。目標の三十名には届きませ
んでしたが、前回の倍以上の参加

同窓会当日、午後一時に幹事七名で集合し打合せをした後、受付を開始しました。受付は今田さん、辺見さんが担当してくださいり、笑顔で参加者を迎えてくれました。参加者が参集した後、会に先立つて記念写真を撮影しました。撮影後、円卓に着座し、いよいよ開会です。司会は太田さんと中島さんに務めていただき、中島さんの

に申請し、しおりに掲載しました。また、学年理事は私と塩崎陽子さんの二名しかいなかつたため、当日の協力者を募つたところ、阿部亮介さん、今田裕子さん、太田禎治さん、中島豊さん、辺見万希子さんが、快く引き受けてくれました。何とも心強い仲間を得て、当日を迎えました。

者が集まつたことに、ほつと胸をなでおろしました。

参加者確定後、皆さんに喜んでいただけるよう八ページのしおりを作成しました。次第や参会者名簿の他、回答していただいた情報を基に、近況報告集をまとめました。その際、埼玉大学のキャラクター「メリンちゃん」の画像を使用できるよう、埼玉大学の事務局

開会の言葉で卒業三十周年同窓会が開宴しました。

最後は阿部さんの締めでお開きとなりました。解散する前に L I N

僭越ながら、私が幹事代表のいさつをさせていただき、ご参会いただいた皆様に歓迎の言葉と感謝の気持ちを伝えました。続いて、ご来賓である教友会副会長の秋本文子様からご祝辞をいただきました。秋本様はご祝辞の中で、教育学者の森信三さんの言葉を引用し、「ご縁」のお話をしてくださいました。秋本様のお話を聴きながら、卒業して三十年間、離れ離れになつていていた私たちの心が、「ご縁」という言葉でつながっていくことを感じました。その後、塩崎さんによる乾杯の発声で歓談に移りました。各テーブルでは、大学時代の思い出や現在の様子を語り合い、賑やかに旧交を深めていました。

暫くして、司会が太田さんに交代して第二部「近況報告」が始まりました。太田さんは社会を専攻しており、遠方の参会者から順に指名しながら、軽快な口調で地理的な情報を織り交ぜながらユーモラスに進行してくれました。トックリバッターは、愛媛県から夫婦でご参加いただいた酒井さんです。その後、一人一人の話が続きました。学生時代はあまり交流がなかった間柄でも、同窓の「ご縁」を感じながら大学時代を共にした仲間の話に大いに盛り上がりしました。二時間半はあつという間に過ぎ、



卒業二十周年同窓会

埼玉大学教育学部 平成十七年三月卒業生 若村 健一

笑顔と絆でつながる二十年の歩みと、未来への約束

令和七年八月十六日(土)、ブリランテ武藏野において、平成十七年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業二十周年同窓会が開催されました。

当初は、卒業十五周年での実施に向けて準備を進めておりましたが、ご承知のとおり、新型コロナウィルス感染症の流行に伴い、延期を余儀なくされ、卒業二十周年での実施となりました。

教友会名簿で確認をしますと、

平成十七年三月の教育学部卒業生は、五五三名でした。そのうち、連絡可能な方は百二十九名ということもあり、また、開催日はお盆明けの時期ということもあり、当日何名の出席があるか幹事として心配でした。

今回の同窓会では、グーグルサイドでホームページを作成し、そこに当日のチラシを掲載したり、当日に係る情報を掲載したりして、できるだけ多くの人に参加してもらうことができるよう周知に努めました。実際にホームページ上で二次元コードから申し込みができるようにして、当日の出席者は、学年理事も含め、二十一名でした。ありがたいことに遠方からかけつ

けてくださる方もいらっしゃいました。

参加の人数は少なかったですが、当日は専修を超えて参加者同士が撮影の後、司会である島田直也幹事からの開会の言葉で開宴しました。

開宴ののち、教友会からご来賓としてお越しいただいた副会長である福島正美様から、ご祝辞を賜りました。福島様からは、現在の埼玉大学のことについて、当時と重ね合わせながらお話をいただきました。また、卒業生である私たちに向けて、昔のことが今につながっており、大変なことももちろんあるが、充実した毎日を過ごせるようにしてほしいとエールをいただきました。

次に、障害児教育コースに在籍していた三浦駿介さんの乾杯の発声により、歓談がスタートしました。席を固定せず、立食としたことで、参加者がテーブルを転々としながら、大学時代の思い出出や現

在のことについて、話す様子が多く見られました。会を通じて笑顔や笑い声が途切れることのない、終始にぎやかな会となりました。

当初予定はしておりませんでしたが、歓談の中で急遽一人一人からスピーチをいただきました。

参加の人数は少なかったですが、当日は専修を超えて参加者同士が撮影の後、司会である島田直也幹事からの開会の言葉で開宴しました。

話題を聞いていた参加者からは、時折笑いが起つたり、拍手が起たりするなど、会場が一体となつて盛り上がる様子が見られました。参加者それぞれが、これまでの二十年を振り返り、専修は違えど同じ大学で学んだという共通の土台や仲間の存在を感じ、大きな励ましや支えになつたようなそんな時間でした。

会の締めは、第一の締めを総合教育科学専修の土屋智治さんから、第二の締めを英語専修の三國寿之さんから、そして大締めを幹事を代表して若村が行い、盛大に締めくくることができました。

参会者からは「ぜひまたこのようない機会があれば参加したい」「十年後の再会も楽しみ」との声が多く上がり、幹事としては開催してよかったです。ありがとうございました。

本会を開催するにあたっては、新型コロナウィルス感染症の関係で延期になつてから五年の時間が経つてしましましたが、二十周年という節目の年で開催が実現できることは、ひとえにご支援・ご協力をいただいた教友会の皆様のおかげと深く感謝しております。

結びになりますが、教友会事務局の皆様、ブリランテ武藏野のスタッフの皆様、参加していただいた皆様に感謝申し上げ、卒業二十周年同窓会の報告とさせていただきます。教友会のますますのご発展を祈念しております。

誠にありがとうございました。



卒業十五周年同窓会

埼玉大学教育学部 平成二十二年三月卒業生 肥田 幸則



懐かしさと喜びに包まれて

令和七年十一月一日(土)、ホテルブリランテ武藏野二階「エメラルド」の間において、平成二十二年三月卒業生による「卒業十五周年同窓会」が開催されました。大学卒業以来、生活や仕事の拠点を埼玉をはじめ全国各地に広げながら、それぞれの道を歩んできた仲間たちが一堂に会し、懐かしい思い出を語り合い、笑顔と温かな交流に包まれたひとときとなりました。

思い起こせば一年前、幹事の阿部健作さんが「目標は百名集めましょう。」と、力強く宣言されたことを今なお鮮明に覚えています。そして、「来てよかつたと思つていただけるような楽しい会にしよう」との思いを胸に、幹事一同、当日まで準備と計画を進めてまいりました。特に、一人でも多くの方々にご参加いただきため、全ての専修より代表者を選出し、SNS等を活用して積極的に情報発信を行いました。その成果もあり、当日の出席者数は目標には届かなかつたものの、最終的に六十二名の方々にご参加いただき、幹事一同、大変嬉しく思いました。また、当日ご

当日は、司会を幹事の吉田真梨さんが務め、幹事代表挨拶を私が行いました。また、ご来賓として教友会副会長の石田耕一様にご臨席賜り、挨拶を頂戴いたしました。石田様は、私たちが学生時代に埼玉大学の教職支援室に在籍され、日頃より教職を志す学生に温かいご指導を賜つた先生であります。当日のご挨拶においても、卒業生の歩みを温かく見守つてくださるお言葉を頂戴し、参加者一同、改めて母校との絆を深く感じることができました。

その後、参加者代表の葛原順也さんに乾杯のご発声をお願いし、会は和やかに始まりました。会場には、子連れの方も安心して過ごせるスペースも設けられており、和やかな雰囲気の中で交流が始まりました。乾杯後しばらくして、全体での集合写真をプロのカメラマンである大村将也さんに撮影し

修より一名ずつ代表者によるスピーチを頂戴し、学生時代の思い出を語らされました。中には、この「卒業十五周年同窓会」に寄せる熱い思いをしゃいましたが、この機会に各専修のグループラインが立ち上がり、改めてつながりを持つ手段が生まれたことは、大きな成果であると感じております。



修より「次の卒業二十周年同窓会は、もつと多くの方々に参加してもらいましょう。」との力強い締めの挨拶があり、盛会のうちに閉会となりました。

結びになりますが、「卒業十五周年同窓会」へのご支援・ご協力をいただきました教友会の皆さんに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。